

OBAMA  
IWAMA

人の<sup>わ</sup>和 まちの<sup>わ</sup>輪 自然の<sup>わ</sup>環

つながり  
— 絆 のある<sup>さと</sup>郷づくり —

和の心で安心して住めるまち

— 海・山・自然とともに人が集う癒しの町 —

小浜・岩間地区復興グランドデザイン



平成 27 年 7 月

小浜行政区・岩間行政区  
い わ き 市



# ■ はじめに ■



## 「グランドデザインの 策定にあたって」

太平洋沿岸に甚大な被害をもたらした、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災から 4 年が経過しました。

小浜地区においても地震・津波により多数の死者や行方不明者、住居の全壊・大規模半壊、さらには農作物・海産物等の出荷・操業停止など大きな被害が発生しました。

発生直後より、NPO 法人・ボランティアの皆様から、ガレキ処理や家の片付け、話し相手など多くの支援をいただき、復旧・復興の大きな励みとなりました。

現在、小浜地区は現地復興を目指し震災復興土地区画整理事業が施工されております。沿岸についても、漁港の復旧、防潮堤のかさ上げ整備など復興に向けて動いております。

この「小浜・岩間地区復興グランドデザイン」は、5 年、10 年、20 年後の新たなまちづくりを目指して策定会議を月に 1 回程度開催し、地域の伝統・文化の継承や復活、若い委員のアイデア・知恵などを集約し、行政、関係機関との協働のもと策定いたしました。

今後、地域の皆様の御理解と御協力を得て、この復興グランドデザインを共有し、行政や関係機関と連携を図りながら、小浜・岩間両地区のまちづくりを進めてまいります。

平成 27 年 7 月

小浜行政区 区長 鈴木 剛



## 「魅力と活力がある まちづくりに向けて」

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故から 4 年が経過しておりますが、津波による被害が大きかった岩間地区の住民は、将来に大きな不安を抱えながら、今なお避難生活を余儀なくされています。

そして、一部の方は、生まれ育った場所での生活再建を断念し、新たな場所への集団移転を決断する状況となりました。

このような中、岩間地区では、現在、海岸堤防及び宅地のかさ上げ、防災緑地の整備及び県道の拡張整備等の復興事業の工事が進められております。

また、地区に隣接して、東京電力(株)と常磐共同火力(株)等による I G C C（石炭ガス化複合発電）プロジェクトが進行するなど、これまでにない大きな変換期を迎えております。

この「小浜・岩間地区復興グランドデザイン」は、このような状況にある地区の問題を共有し、その解決方策をまとめるとともに、将来のまちづくりを進めるための指針となるものであり、行政や企業も加わって、何度も話し合いを重ね策定したものであります。

今後は、小浜・岩間両地区が誇りある魅力と活力あふれるまちとなるよう、協働のまちづくりにまい進してまいります。

平成 27 年 7 月

岩間行政区 区長 齊藤 正志

## 目 次

### はじめに

1. 復興グランドデザインについて	1
(1) 復興グランドデザインの意義	1
(2) 前提事項	2
2. 地区の資源と問題点・課題	4
(1) 小浜・岩間地区の概要	4
(2) 地区の資源と問題点	6
(3) 地区の課題の整理	8
3. 復興まちづくりの目標とテーマ	9
(1) 復興まちづくりの基本理念	9
(2) 復興まちづくりの目標	9
(3) 復興まちづくりのテーマ	10
4. 復興まちづくりの方策	11
(1) 安全・安心のまちづくり	11
(2) 自然と共生・美しいまちづくり	14
(3) 暮らしやすいまちづくり	15
(4) 活気と豊かさを育むまちづくり	17
(5) 人と文化が息づくまちづくり	19
5. 復興まちづくりの推進に向けて	20
(1) 重点プロジェクト	20
(2) 復興まちづくりの推進手順	21
6. 参考資料	22

(表紙写真)	[左] 高台から見た岩間地区	(2013. 02. 21)
	[右] 勿来八景 <small>おばまのせきしょう</small> 小濱夕照	(2009. 09. 24)
(裏表紙写真)	津波が襲った小浜町の住宅跡地に元気に咲いたひまわり	(2012. 08. 08)

# 1

# 復興グランドデザインについて

## (1) 復興グランドデザインの意義

いわき市南部、勿来地区の東部海岸沿いに位置する小浜及び岩間地区は、常磐共同火力株式会社勿来発電所の存在や漁業、農業などを基盤としながら、穏やかな自然環境と共存した生活の場として歴史を刻んできました。

しかし、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災による津波の大きな被害を受け、福島第一原子力発電所事故がもたらした風評被害も加わり、多くの住民が他地域で避難生活を送るなど、地区のコミュニティ、住民生活の根底を揺るがす状況が続いています。

津波被災地では、震災復興土地区画整理事業が進められ、海岸堤防、防災緑地の整備など、復興事業が着実に進展していますが、その上で、住民の生活、地区のコミュニティ、産業、文化などを立て直し、安全で快適な、かつて以上の魅力と活気のあるまちを築き、10 年、20 年後の近い将来に必ずや次の世代の生活や活動の拠点となるための真の復興に取り組んでいかなければなりません。

そこで、地区の住民と行政が協働で、どのような目標、方針で復興まちづくりを進めるかを示し、共通の指針とするためにとりまとめたものが復興グランドデザインです。小浜及び岩間地区の復興グランドデザインは、両行政区の住民と市及び県の行政が協働作業で平成 25 年度からワークショップを重ねながら策定したものです。今後これに沿って、地区の再生に全力で取り組んでいきます。



小浜町の渚川・台橋(2011.03.14)



岩間町岩下に押し寄せる大津波(2011.03.11)



## (2) 前提事項

この復興グランドデザインは、次の事項を前提として策定します。

- 対象とする区域は、おおむね、小浜及び岩間の行政区の所管エリアとします。津波被災地だけでなく、背後の高台や農地等の部分も含まれます。
- この復興グランドデザインの計画期間は、当面震災後 10 年後（平成 32 年度ごろ）をひとつの区切りとし、さらにその先の 10 年後を目標に据えます。
- この復興グランドデザインは、地区住民と行政が協働で作りに上げてきたものであり、ここに盛り込まれる内容は、行政による施策と、地区住民や民間事業者等の活動によるもの、その両者の協働の取り組みが含まれます。
- いわき市による小浜地区及び岩間地区の震災復興土地区画整理事業、福島県による海岸堤防、防災緑地の整備、県道泉・岩間・植田線の改良事業は、概ね平成 29 年度を目処に完了し、地区の新たな基盤インフラとなります。

### ◎地区の位置図







汐見が丘  
小学校へ

★避難路の整備

東部の高台

海岸道路  
W=14m

防潮堤高 7.2m

東部の高台

防潮堤高 7.2m

小浜漁港

防潮堤(海側)

防潮堤（陸側）

岩間集会所

★避難路の整備

楫取津神社










★避難階段の準備

小原地区<

海岸道路 W=14m

防潮堤高 7.2m

住宅	住宅
非可住（事業所等）	非可住（事業所等）
墓地	墓地
水路	水路
公益的施設	公益的施設

施行地区界	
	都市計画道路
	区画道路
	歩行者専用道路
	公園
	防災緑地
	緑地
	防潮堤
	河川
	水路

公共施設

## 凡例

## 2

# 地区の資源と問題点・課題

## (1) 小浜・岩間地区の概要

### ◎地区の概況

	小浜	岩間
大字小字	小浜町（渚、台、東ノ作の一部、西ノ作の一部、西小原）	岩間町（岩下、輪山、仁反田、川田、竹ノ花、沼田、上山の一部、塚原、天神前、小原）
位置	J R 常磐線植田駅から東へ約 4 km	J R 常磐線植田駅から東へ約 3 km
土地・建物等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県道泉・岩間・植田線の沿道近くに住宅が集中し、北側の背後は高台で農地または山林です。</li> <li>・ 沿岸部に小浜漁港（第一種漁港）があり、周囲にいわき市漁業協同組合小浜支所施設や水産関連工業施設、店舗併用住宅が立地していました。</li> <li>・ 漁港西側には小浜海水浴場が隣接しています。</li> <li>・ 地区内に小浜公民館、近隣に汐見が丘小学校があります。</li> <li>・ 地区東側に常磐共同火力株式会社勿来発電所小浜第一ポンプ場、北側に小浜第二ポンプ場が立地しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 急斜面の崖地の南の低地、北の台地に二分され、斜面下の低地に住宅地が東西に広がっていました。</li> <li>・ 低地部には、そのほかに、農地や火力発電所関連を含む工業系施設、商業業務施設、林業施設が立地していました。</li> <li>・ 地区西側に隣接して常磐共同火力株式会社勿来発電所が立地しています。</li> <li>・ 火力発電所からの高圧送電線（架空線）、鉄塔があります。</li> <li>・ 台地部分（小原、上山）は農地（畑）及び山林となっています。</li> </ul>
都市基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道 6 号常磐バイパス及び県道泉・岩間・植田線が地区を東西に貫通し、地区の北から南へ渚川が流れています。</li> <li>・ その他の道路の多くは、幅員が狭い。</li> <li>・ 渚及び台地区の一部は公共下水道排水区域ですが事業未認可地区です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道 6 号常磐バイパス及び県道泉・岩間・植田線が地区を東西に貫通しています。</li> <li>・ 国道 6 号常磐バイパスの下を横切る南北の道路は幅員が狭い。</li> <li>・ 低地部分の大半は公共下水道排水区域ですが事業未認可地区（地区西側までは事業認可済）です。</li> </ul>
法的規制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道 6 号常磐バイパスの南側は大半が市街化区域であり、用途地域は第一種住居地域です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道 6 号常磐バイパス以南の大半は市街化区域で、西半分が準工業地域、東半分が第一種住居地域です。</li> <li>・ 西側に植田東部土地区画整理事業地（平成 6 年換地処分）が隣接しています。</li> </ul>
埋蔵文化財包蔵地等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小浜地区の地区外西側には、渚遺跡、小浜町台遺跡、西小原遺跡の計 3 つの埋蔵文化財包蔵地が指定されています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岩間地区内には、天神林古墳があり、岩間地区外の北・東側には、小原遺跡、輪山遺跡、岩下遺跡、岩間横穴墓群、輪山館跡の計 5 つの埋蔵文化財包蔵地が指定されています。</li> </ul>



## ◎被災状況

	小浜	岩間
最大津波高(※)	7.1m（小浜町渚）	7.66m（岩間町岩下）
被災家屋数	64 棟（うち全壊(流出含む)31 棟、大規模半壊 12 棟）	189 棟（うち全壊(流出含む)80 棟、大規模半壊 62 棟）
被害状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県道泉・岩間・植田線以南の被害が大きく、大半が全壊、流出しました。</li> <li>・ 漁港関連施設も壊滅的な被害を受けました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県道泉・岩間・植田線と後背斜面地の間の住宅地はほぼ全壊、流出しました。</li> <li>・ 西側の住宅、商業業務施設等は全壊、半壊、一部損壊の被害を受けました。</li> </ul>
住民居住状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県道泉・岩間・植田線以南では大半の住民が避難しています。</li> <li>・ 津波被害を免れた台地区では多くの住民が居住しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大半の住民が地区外へ避難しています。</li> <li>・ 地区西側など一部の住宅では居住しています。</li> </ul>

(※)公益社団法人土木学会「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループによる速報値  
(平成 24(2012)年2月3日参照)」による。



被災後の小浜・岩間地区航空写真（2013）

## (2) 地区の資源と問題点

地区の現状を住民の目線で見つめ直し、「地区の資源」（活かすべきプラス要素）と「地区の問題点」（克服すべきマイナス要素）を以下のように整理しました。

### ◎地区の資源（活かすべきプラス要素）

注) ※印は、今はない、見られないもの

#### 高質な海産資源

あわび・うに  
わかめ  
シラス  
岩牡蠣

#### 漁業・漁港

かご漁、さし網漁  
釣りの適地・釣り船  
コンパクトな漁港  
岩間もかつては漁港※

#### 農産物・農地

ねぎ  
たくあん大根  
集落背後の農地

#### 恵まれた気候・地形

温暖な気候  
鳴き砂  
サーフィンに適する波  
洞窟・鉱泉

#### 独特な動植物

コシダ、ウラジロ自生地  
こうもり

#### 海や街の景観

美しい景観  
海、海岸線の美(菊田浦)  
照島  
小さな港町の風景  
海あり山あり  
海からの夜景も

#### 固有の伝統文化

左義長で両地区交流※  
虫送り  
岩間の松送り  
神社のお祭り・神輿  
酉小屋※  
盆踊り  
珍しい名字

#### 歴史を伝える社寺

神社(愛宕神社、楯取津神社等)  
阿弥陀さま

#### 歴史を語る遺産

石碑(漁師の名)  
勿来八景の石碑(倒壊)

#### 海水浴場

安全で小さな海水浴場

#### 人を呼べる施設等

小浜パーキング  
いわき健康センター  
小名浜オーシャンホテル  
評判のラーメン店※  
照島ランド※  
魚介料理の提供※  
ふらっと※  
トロツコが通ったトンネル  
小型遊覧船(料理付も)※

#### 訪れる人々

サーファーの来訪  
ゴルフ客

#### コミュニティの結束

町内のまとまり  
半農半漁の地区  
消防団も一緒

#### 人の心のつながり

人情豊か  
昔ギャルのおしゃべり  
元氣なわが(若)妻会  
近所のつきあい  
3世代同居家族多い

#### 生活関連施設

小浜公民館  
岩間集会所

#### 大きな産業施設

常磐共同火力勿来発電所

#### 進む復興事業

震災復興土地区画整理事業  
防潮堤・防災緑地の整備  
県道泉・岩間・植田線改良



見守る子供達 小浜海岸  
(2009.07.19)



祭礼の雄姿 小浜海岸  
(2009.07.19)



竜宮岬 (2011.08.18)



## ◎地区の問題点（克服すべきマイナス要素）

### 人の流出・減少

人の流出、減少  
少子化、高齢化  
発電所新設の居住への影響  
時間経過で戻る人が低調に

### 道路が不十分

生活道路が狭い  
移転先(小原)の道路不便  
避難路の幅員が狭い  
バイパス利用が不便

### 交通利便が不足

バスがなく買物・通院不便  
高齢者の足がない

### 買物の不便

地区内に店舗がない  
コンビニもない  
買物難民化

### 防災・防犯面の不安

津波の恐怖  
強風(小原)  
ブロック塀は危険  
街路灯が不足(夜危険)  
岩間は後ろが崖  
防潮堤で内水対策に不安  
台風時の渚川への水遡上  
消防団の維持に不安  
治安面の不安

### 文化の伝承に支障

神輿を誰が担ぐか  
神輿の老朽化  
愛宕神社の御神体破損

### 産業継続の困難

漁港関連施設の津波被害  
海の資源が販売できない  
海産物の加工屋がない

### 施設管理体制の問題

海水浴場の管理体制なし  
防災緑地の管理をどうする

### 観光基盤の不足

集客施設がない

### 環境・マナー面の問題

観光客のゴミ公害  
サーファーの迷惑行為  
サーファーの駐車場・トイレなし  
車からのゴミポイ捨て  
海岸・海水浴場のゴミ置き去り

### 産業施設の負の面

発電所隣接地の土地利用に不安  
発電所の騒音

### 景観の阻害

防潮堤による景観面の不安  
道路脇・津波被災地が草ぼうぼう

### コミュニティ維持の不安

2地区の交流が心配  
地区内の人のコミュニケーション不足  
情報交換の場が少ない  
話し相手がいない

### 福祉・医療の問題

日中ひとりの家が多い  
近くに病院がない

### 教育環境の問題

学区・通学路をどうする  
通学路の草繁茂

### 生活基盤施設の不足

子どもの遊び場不足  
光ファイバー未整備



小浜地区におけるボランティア活動  
(2011.05.03)



被災した岩間地区に幸せのクローバ  
ーを植栽 (2012.03.04)



「なこそ希望アートフェス」にて、流  
木などを使ったアート制作(2014.03.09)



小浜海岸での「心の駅復興祭」  
の様子 (2014.03.11)



小浜漁港での自主防災訓練の様子  
(2014.11.02)



### （３）地区の課題の整理

地区の現状における「資源」と「問題点」の整理結果から、小浜・岩間地区の「課題」を、以下のように5つの項目に集約し、共通する課題を「人口の流出・減少の抑制」と設定しました。

## 「地区の現状」

地区の資源（活かすべきプラス要素）	高質な海産資源	→4
	漁業・漁港	→4
	農産物・農地	→4
	恵まれた気候・地形	→2
	独特な動植物	→2
	海や街の景観	→2
	固有の伝統文化	→5
	歴史を伝える社寺	→5
	歴史を語る遺産	→5
	海水浴場	→4
	人を呼べる施設等	→45
	訪れる人々	→45
	コミュニティの結束	→5
	人の心のつながり	→5
	生活関連施設	→3
大きな産業施設	→4	
進む復興事業	→12	

地区の問題点 (克服すべきマイナス要素)	人口の流出・減少	→●
	道路が不十分	→①③
	交通利便が不足	→③
	買物の不便	→③
	防災・防犯面の不安	→①
	文化の伝承に支障	→⑤
	産業継続の困難	→④
	施設管理体制の問題	→②③
	観光基盤の不足	→④
	環境・マナー面の問題	→③④
	産業施設の負の面	→③
	景観の阻害	→②
	コミュニティ維持の不安	→⑤
	福祉の問題	→③⑤
	教育環境の問題	→③⑤
生活基盤施設の不足	→③⑤	

## 「課題」の集約

## ①安全・安心の確保

- ・復興関連事業の着実な推進
- ・防災対策の徹底
- ・避難路・避難場所の整備充実
- ・防災・防犯体制の強化
- ・消防体制の改善

## ②自然の保全と景観の創造

- ・自然環境、自然景観の保全
- ・良好な景観の活用
- ・新たな景観づくり
- ・環境美化対策
- ・環境の維持管理体制づくり

### ③生活の利便・環境の向上

- ・道路・交通環境の改善
- ・生活交通の確保
- ・生活関連公共施設の充実
- ・子育て・教育環境の改善
- ・福祉体制の充実
- ・環境を阻害する要因への対策
- ・助け合い、見守りの強化

#### ④産業再生・新たな産業おこし

- ・海の資源を活かした誘客
- ・自然や文化資源の情報発信
- ・集客施設の整備や活用
- ・新たな「売り物」づくり
- ・漁業の再興、海産物資源活用
- ・火力発電所との共生

## ⑤人の絆づくりと文化の伝承

- ・祭や神社など歴史の伝承
- ・地区内の人との交流拡大
- ・コミュニティの維持
- ・地区の活動組織の充実
- ・訪れる人との交流

[共通する課題]

## ●人口の流出・減少の抑制

### 3

## 復興まちづくりの目標とテーマ

### (1) 復興まちづくりの基本理念

小浜及び岩間地区での復興まちづくりの行動は、次の基本理念のもとで進めます。

基本理念は、地区住民や行政がまちづくりへの取り組みを進めるにあたって、共通に持つべき心構え、姿勢、考え方というべきものです。

《復興まちづくりの基本理念》

人の<sup>わ</sup>和 まちの<sup>わ</sup>輪 自然の<sup>わ</sup>環  
つながり さと  
— 絆 のある 郷づくり —

小浜及び岩間の地区が一丸となって復興まちづくりを進めるには、何よりも人の「つながり」を大切にし、ひとりの力を大きな力に束ね、それをまちのつながりに発展させ、誇りある自然の環境と調和した新しい郷をつくるという意識を共有することが重要です。

「つながり」は「絆」。様々なつながりを育てながら、「和」「輪」「環」を基本に据えて取り組みます。

### (2) 復興まちづくりの目標

基本理念のもとで、私たちが目指していく小浜・岩間地区の目標を、次のように掲げます。

《復興まちづくりの目標》

和の心で安心して住めるまち  
— 海・山・自然とともに人が集う癒しの町 —

小浜及び岩間地区は、海・山の自然に抱かれた美しく癒しを感じるまちでした。未曾有の大災害を超えて、私たちはこの町のすばらしさを再生させていきますが、それは単なる過去の再現ではなく、安全性が確保され、安心して住める環境、そしてそこでの温かいコミュニティを、基本理念に沿った「和の心」でつくりあげていくことです。その新しいまちの魅力、自然と調和した癒しの環境を求めて、ここに人が集います。

### (3) 復興まちづくりのテーマ

基本理念に沿って復興まちづくりの目標を目指すために、具体的なまちづくり方策を、次の5つのテーマのもとに位置づけて進めます。

このテーマは、8ページのまちづくりの5つの「課題」をふまえ、その解決を図りながら「人の呼び込み・定住」を推進し、目標に近づくことを表すものです。







# 4

## 復興まちづくりの方策

### ☞「復興まちづくりの方策」の見かた

5つの「復興まちづくりのテーマ」ごとに、小項目を立てながら、取り組むべき方策を示します。

【地 区】 ・  **小浜** 小浜行政区 ・  **岩間** 岩間行政区

#### 【実施主体】

- ・ **行政** 国、県、市など
- ・ **住民** 小浜行政区又は岩間行政区内の地区住民
- ・ **民間等** 民間企業、漁協、まちづくり団体、NPO法人など

※ 取組みの主体には「●」、参加・協力するものは「▲」を表示しています。





#### 【実施時期】

- ・ **短期** [～平成 27 年度中の対応を目標とするもの]（現在実施中の事業、既存事業や制度の中で短期的に対応が可能なもの、課題の整理や地域の合意形成が容易なもの）
- ・ **中期** [平成 28 年度～平成 32 年度の対応を目標とするもの]（調査検討中で平成 28 年度からの実施が可能なもの、今後具体化に向け事業手法や事業費について引き続き検討を進めるもの、課題の整理や地域の合意形成等に一定の時間を要するもの）
- ・ **長期** [平成 33 年度以降の対応となるもの]（長期的なまちづくりの視点で取組むもの、大規模で事業化を見極めるには、課題の整理や合意形成、優先順位の検討、関係機関との調整等に十分な時間が必要なもの）

※ 現時点で関連する取組みを行っており、中長期的な視点から今後も取組みを継続していく必要があるものは、短期～中長期までまたがって表示しています。

### （１）安全・安心のまちづくり

ア) 避難路の整備	渚地区から、金山町方面へ向かう避難路（市道汐見台・渚線、渚・西ノ作線）を改良・拡幅します。
	岩下地区から、小原地区へ向かう避難路（市道塚原・東ノ作線）を改良・拡幅します。
イ) 安全確実な避難	避難路・避難場所について、日ごろから地区住民に周知・徹底を図るとともに、標識等で表示します。また、夜間や停電時に備え、視認性の高い蓄光式の表示板等を整備します。

地区		実施主体			実施時期		
小浜▽	岩間▽	行政▽	住民▽	民間等▽	短期▽	中期▽	長期▽
		●				▲	
		●				▲	
		●				▲	

イ) 安全確実な避難	災害時においても、歩行者や自動車が安全かつ迅速に通行できるよう、県道及び市道の拡幅や待避所の整備を検討します。
ウ) 避難所施設の機能充実	一時的な避難所となる地区内の公民館、集会所等に、非常食や水等を備蓄するとともに、ＡＥＤや車椅子等を備えます。
エ) 避難場所の確保	津波に備え、海岸付近の歩行者や観光客等が安全に避難できる高台の避難場所の確保を図ります。
オ) 津波防御対策	津波への多重防御対策として、防潮堤、防災緑地及び消波ブロックの整備を進めます。
カ) 防風林の整備	小原地区において、植樹などによる防風林の整備について検討します。
キ) 防災意識の向上	定期的に合同の防災訓練を行い、災害時に迅速かつ円滑に対応できるよう両地区の連携を強化します。
	津波等の各種ハザードマップで示された危険区域を十分に把握するなど、日ごろから防災意識の向上に努めます。
ク) 震災の記録と記憶の伝承	後世に震災の記録と記憶を伝承するため、防災緑地内に津波で破壊された防潮堤の一部を保存するほか、津波の証言をまとめた記録等を収めたタイムカプセルを設置します。また、復興のシンボルとして「ふ化を待つ卵の明るい将来」をイメージした卵型の彫刻（モニュメント）を設置します。
ケ) 地区の災害対応力強化	避難行動要支援者の名簿やマップを作成するなど、災害時に要支援者が孤立することを防ぐため、地域の中で支援する方策・体制づくりを行います。
コ) 防災情報伝達手段の充実	地区全体に防災情報が速やかに行き渡るよう、防災行政無線の整備や防災ラジオ等の貸与を進めるほか、防災メールやＳＮＳ等を活用した情報伝達手段の多重化を図ります。

地区		実施主体			実施時期		
小 浜 ▽	岩 間 ▽	行 政 ▽	住 民 ▽	民間 等 ▽	短 期 ▽	中 期 ▽	長 期 ▽
		●					▶
			●		▶		
		●				▶	
		●			▶		
		▲	●				▶
		▲	●	▲	▶		
		▲	●	▲	▶		
		▲	▲	●		▶	
		●	▲		▶		
		●	▲	●		▶	

サ) 消防体制・ 施設の充実	消防団の体制について、充実を図るとともに、災害時における消防団経験者の協力体制について検討します。あわせて、市消防本部との連携強化に努めます。
	消防団詰所、防火水槽等の消防施設を整備し、消防力の充実を図ります。
シ) 防犯体制・ 環境の整備	防犯意識の高揚と犯罪の抑止を図るとともに、子どもや高齢者の安全を確保するため、地域内の見守り体制を構築します。
	夜間における犯罪の防止と通行の安全を図るため、計画的に防犯灯を整備します。
	各戸で周囲から比較的見通しの良い塀や柵などを設けることにより、防犯環境の向上に努めます。
ス) 交通安全の 確保	地区住民を交通事故から守るため、信号機、横断歩道、交通安全標識等の整備を進めます。また、県道泉・岩間・植田線の線形改良により通行車両の速度が高まるおそれがあるため、交通安全を確保する方策について検討します。
	県道泉・岩間・植田線の違法駐車対策を強化するため、駐車場や防犯カメラ等の設置について検討します。

地区		実施主体			実施時期		
小 浜 ▽	岩 間 ▽	行 政 ▽	住 民 ▽	民間等 ▽	短期 ▽	中期 ▽	長期 ▽
		●	●			→	
		●	▲			→	
		●	●	●		→	
		▲	●			→	
			●			→	
		●	▲			→	
		●	▲			→	



小浜漁港での自主防災訓練の様子  
(2013.10.27)



小浜 (2014.11.02)



岩間 (2015.04.23)

防潮堤整備の様子



## (2) 自然と共生・美しいまちづくり

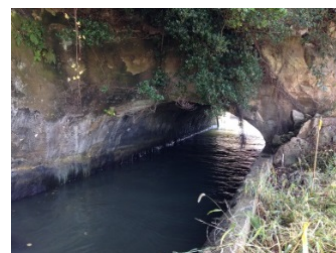
ア) 自然環境との共生	地区住民一人ひとりが、優れた自然環境を守り、自然と共生するという意識を高めるため、啓発活動を行います。
イ) 固有の景観の尊重	地区固有の魅力ある海岸等の自然景観を保全する有効な方策について検討します。 津波により流出した <small>おばまのせきしきょう</small> 小濱夕照（勿来八景の石碑）を再建します。
ウ) 防災緑地の環境整備	防災緑地の清掃や草刈、樹木剪定等の維持管理を適切に行うため管理体制を整備し、環境保全や良好な景観形成を図ります。
エ) 農地景観の保全	美しい農地の景観を保全するため、耕作放棄地の発生防止に努めます。
オ) 住宅や周辺の緑化・美化	地区内の住宅地において、良好な景観を形成するため、地区住民の視点で統一的なルールを定めます。 各戸で生け垣を設置するなど、地区内の緑化を推進し、緑豊かな街並みの形成に努めます。
カ) 道路景観の向上	道路や遊歩道への植栽に取り組むとともに、適切な維持管理を行うことで、道路景観の保全に努めます。
キ) 展望台の設置	地区内外の方が美しい景観や夜景を楽しむことができるよう、海や火力発電所が見渡せる場所に展望台広場を設置します。
ク) 遊歩道・散歩コースづくり	自然や景観を楽しみながら、健康増進を図ることができるよう、両地区と金山地区、地区内の4つの神社や小浜漁港、汐見が丘小学校を結ぶ魅力ある遊歩道の整備や散歩コースの設定を行います。

地区		実施主体			実施時期		
小 浜 ▽	岩 間 ▽	行 政 ▽	住 民 ▽	民間等 ▽	短 期 ▽	中 期 ▽	長 期 ▽
		▲	●	▲		▶	
		●	▲	▲		▶	
		▲	▲	●		▶	
		●	▲	▲	▶		
		▲	●			▶	
		▲	●			▶	
		▲	●			▶	
		●	▲			▶	
		●	▲	▲		▶	
		▲	●	●		▶	



小浜・岩間地区で防災緑地に植樹する苗木を採取  
(那智神社にて)  
(2014.06.22)

小浜漁港脇の渚川河口  
(2014.11.02)



### (3) 暮らしやすいまちづくり

ア) 土地の有効利用	岩間震災復興土地区画整理事業区域に隣接する竹ノ花地内の遊休地の有効活用を図ります。
イ) 生活道路の整備	住環境の向上を図るため、震災復興土地区画整理事業区域内に新たな道路を整備するとともに、既存の幅員の狭い生活道路の拡幅を進めます。また、岩間町小原地区の生活の利便性を高めるため、市街地に直結する道路の整備に向けた検討を行います。
ウ) 道路の安全・信頼性確保	国道6号バイパスを横断する橋の十分な安全性を確保するため、耐震化を進めるとともに、その拡幅について検討します。
エ) 生活交通の確保	小浜、岩間、佐糠及び金山の各地区と植田駅前等を結ぶ、生活交通の仕組みづくりについて検討します。
オ) 公園の整備	地区内に、子どもたちが安全に遊べる遊具、東屋（あすまや）、ベンチ等を備えた公園を整備するとともに、常に明るく安全・快適に利用できるよう、その適切な維持管理に努めます。
カ) 地区公共施設の整備	地区住民の交流を促進するため、地区公民館や漁協施設等を集約した拠点施設の整備について検討します。
	津波により流出した岩間集会所を再建します。
キ) バリアフリー化	障がい者や高齢者も暮らしやすいまちづくりを推進するため、道路、公共施設等のバリアフリー化を進めます。
ク) 福祉の充実	子どもや高齢者等が地域で安心して生活できるよう、地域内で助け合う体制を構築します。

地区		実施主体			実施時期		
小 浜 ▽	岩 間 ▽	行 政 ▽	住 民 ▽	民間等 ▽	短 期 ▽	中 期 ▽	長 期 ▽
			●	▲			
		●					
		●					
		▲	●	▲			
		●					
		●	▲	▲			
		●					
		●		▲			
		▲	●				

ケ) 健康の維持・増進	地区住民の健康の維持・増進を図るため、地区への運動施設の整備や、近隣の温浴施設等との連携方法について検討します。
コ) 環境美化 (ゴミ対策)	環境美化の推進を図るため、自動車からのポイ捨てを防止する有効な方策について検討します。
サ) 通信環境の向上	携帯電話基地局の増設や光ファイバー回線の整備を進めるなど、情報インフラの充実を図ります。
シ) 教育環境の整備	小原地区の児童・生徒については、これまでの小・中学校に引き続き通学できるよう、学区の柔軟な対応策を検討します。
	関係機関が連携し、小学校の通学路における、交通安全の確保に向けた取組みを推進します。

地区		実施主体			実施時期		
小 浜 ▽	岩 間 ▽	行 政 ▽	住 民 ▽	民間等 ▽	短期 ▽	中期 ▽	長期 ▽
			●	▲		▶	
		▲	●	▲	▶		
			▲	●	▶		
		●	▲		▶		
		●	▲			▶	



災害公営住宅佐糠団地  
(第一工区)完成予想図



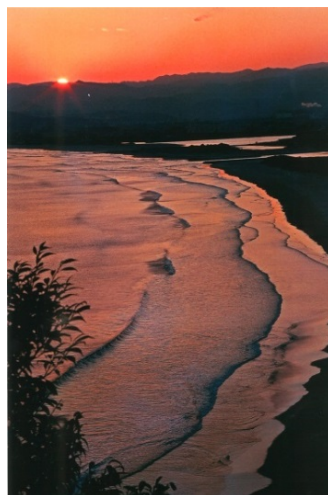
岩間震災復興土地地区画整理事業  
小原地区宅地造成状況(2015.07.12)



震災後、開通したヘアピンカーブ  
(2013.07.09)



小浜海岸 (2005.06)



岩間の夕暮 (2011.12.02)



小浜海岸 (2014.11.02)



## (4) 活気と豊かさを育むまちづくり

ア) 漁業の再興	地区の基幹産業である漁業の再興を図るため、漁業基盤や生産体制の整備を目指します。
イ) 農水産業の活性化	<p>地域特産のネギ、ウニ、岩牡蠣等の農水産物のブランド化や加工品の開発を推進するほか、販路開拓に向けた方策を検討します。</p> <p>良好な農地、釣り場等の地域資源を活用した農業・漁業体験メニューによるグリーンツーリズム・ブルーツーリズム（※農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動）など、様々なツーリズム開発を推進します。</p>
ウ) 農水産物の提供	海鮮料理を提供する「浜の駅ふらっと」の地区での再建を目指します。また、小浜パーキング等を活用し、農水産物を販売する「軽トラ市」等を開催し、賑わいの場を創出します。
エ) 海水浴場の復活	子どもも楽しく遊べる安全・安心で魅力あふれる小浜海水浴場を再開し、夏の賑わいを取り戻します。
オ) 防災緑地の観光活用	防災緑地内に、遊歩道、広場・ステージ等を整備することで、健康運動、芸術・文化活動等の場とするほか、観光振興にもつなげます。
カ) 地区外からの誘客の工夫	<p>砂の芸術祭など、地域資源を活かした特色あるイベントを企画・実施し、市内外からの誘客を図ります。</p> <p>魅力ある新たな地区の名所として、波の泡がハート型に見える恋人岬（※愛宕神社の南側）の活用・PRについて検討します。</p> <p>サーフィンの名所としての環境を整えるため、地区住民とサーファーが共生できるルールづくりや必要な設備等の整備について検討します。</p>

地区		実施主体			実施時期		
小 浜 ▽	岩 間 ▽	行 政 ▽	住 民 ▽	民間等 ▽	短期 ▽	中期 ▽	長期 ▽
		▲		●		▶	
		▲	●	▲		▶	
			▲	●		▶	
			▲	●		▶	
		●	▲	▲		▶	
		●	▲	●		▶	
		▲	▲	●		▶	
		▲	●	●		▶	
		●	●	●		▶	

カ) 地区外からの 誘客の工夫	海から美しい海岸線や花火大会を望むことができるよう、漁船の遊覧運航について検討します。
	国道6号バイパスから、両地区へ円滑に誘導できる標識の整備を行います。
キ) 観光資源等の 情報発信	地区の魅力や現状を広く紹介するため、美味しい農水産物や観光、イベント等に関する情報をSNSなどの様々な媒体で発信します。
ク) 火力発電所 施設の観光 資源化	「世界最新鋭の石炭火力発電所プロジェクト」として建設される施設を地域のシンボルとしてとらえ、観光資源としての活用を検討します。
ケ) 再生可能エネ ルギーの利活 用	太陽光発電などの環境負荷の少ない再生可能エネルギーの導入と利活用について検討します。
コ) 話題の店づくり	話題性のある美味しいカフェやサーフショップをはじめとした様々な店舗の誘致を推進し、観光客等の誘客に努めます。

地区		実施主体			実施時期		
小 浜 ▽	岩 間 ▽	行 政 ▽	住 民 ▽	民間等 ▽	短 期 ▽	中 期 ▽	長 期 ▽
			▲	●		▶	
		●				▶	
		▲		●		▶	
		▲	▲	●		▶	
		▲	●	●	▶		
			▲	●		▶	



小浜海岸でのワカメ干し(2009.05.26)



太陽光発電施設 (2014.11.04)



ゆうしょうもんよう  
夕照文様 小浜漁港 (2010.12.09)



かじとりつ  
楯取津神社 (2015.04.23)



さぎちよう  
小浜の左義長(昭和 50 年代)

## (5) 人と文化が息づくまちづくり

ア) 地区住民の絆（つながり）の維持	地区内の住民と地区を離れた住民が、親睦を深め、絆（つながり）を維持できるよう、様々な交流活動を展開します。
イ) 住民活動の活性化	両地区の住民活動の活性化と世代間交流の促進を図るとともに、近隣地区住民との交流や絆（つながり）を強化するための仕組みづくりについて検討します。
ウ) 住民交流の場づくり	高齢者をはじめとする地区住民が気軽に集える場所やゲートボール場、パークゴルフ場等の整備について検討します。
エ) 関係団体とのまちづくり連携	「和の心で安心して住めるまち」を築くため、地区住民を中心に構成するまちづくり団体を設立し、行政、関係団体、事業所等と連携を図りながら、一体となって地域課題の解決や地域振興に努めます。
オ) 地区情報の共有と発信	<p>両地区の住民が、地区内の情報を定期的に共有・交換するため、年1～2回の頻度で広報誌（かわら版）を発行します。また、若者や子育て世代の定住人口の増加につなげるため、地区内外に向けてSNS等インターネットを活用した地区の情報発信に取り組みます。</p> <p>創作活動に適した風光明媚な自然環境をアピールし、芸術家のアトリエ建設や定住促進を図るため、情報発信を行います。</p>
カ) 地区の歴史文化の継承	<p>地区の伝統行事である虫送り、西小屋、左義長等を復活します。また、浜降りの海中渡御や砂浜での盆踊り等の祭りを開催することで、両地区の交流を深めるとともに、子どもたちに文化の継承を行います。</p> <p>地区内の神社を、鎮守の森、祭祀や参拝の場、歴史文化を伝える場として住民が協力して保存・継承に努めます。</p>

地区		実施主体			実施時期		
小 浜 ▽	岩 間 ▽	行 政 ▽	住 民 ▽	民間等 ▽	短 期 ▽	中 期 ▽	長 期 ▽
		▲	●	▲	▶		
		▲	●	▲	▶		
		▲	●	▲		▶	
		▲	●	●	▶		
		▲	●	▲		▶	
			▲	●	▶		
			●		▶		
			●		▶		

## (1) 重点プロジェクト

4に掲げた復興まちづくりの方策は多岐にわたり、そのそれぞれが重要ですが、特に先導的、優先的に実施することが有効で、他への波及効果も大きいと期待されるものを「重点プロジェクト」として選定します。また、この復興グランドデザイン全体を協働で進めるための体制づくりを、最優先の重点プロジェクトとして加えます。

## 重点プロジェクト

## ●復興まちづくり推進体制の確立

- この復興グランドデザインを、住民・民間等と行政が協働で推進するための地元の中心体制を、現在の行政区を母体に立ち上げ、各主体が進めるまちづくり方策の総合的な進行管理や調整、行政との情報連携等を円滑に行いながら目標の達成を目指す仕組みを確立します。

(以下、再掲)

## ●避難路の整備

[(1) ア]

- 渚地区から、金山町方面へ向かう避難路（市道汐見台・渚線、渚・西ノ作線）を改良・拡幅します。
- 岩下地区から、小原地区へ向かう避難路（市道塚原・東ノ作線）を改良・拡幅します。

## ●避難所施設の機能充実

[(1) ウ]

- 一時的な避難所となる地区内の公民館、集会所等に、非常食や水等を備蓄するとともに、AEDや車椅子等を備えます。

## ●防犯体制の整備

[(1) シ]

- 防犯意識の高揚と犯罪の抑止を図るとともに、子どもや高齢者の安全を確保するため、地域内の見守り体制を構築します。
- 夜間における犯罪の防止と通行の安全を図るため、計画的に防犯灯を整備します。

## ●生活道路の整備

[(3) イ]

- 住環境の向上を図るため、震災復興土地区画整理事業区域内に新たな道路を整備するとともに、既存の幅員の狭い生活道路の拡幅を進めます。また、岩間町小原地区の生活の利便性を高めるため、市街地に直結する道路の整備に向けた検討を行います。

## ●地区住民の絆（つながり）の維持

[(5) ア]

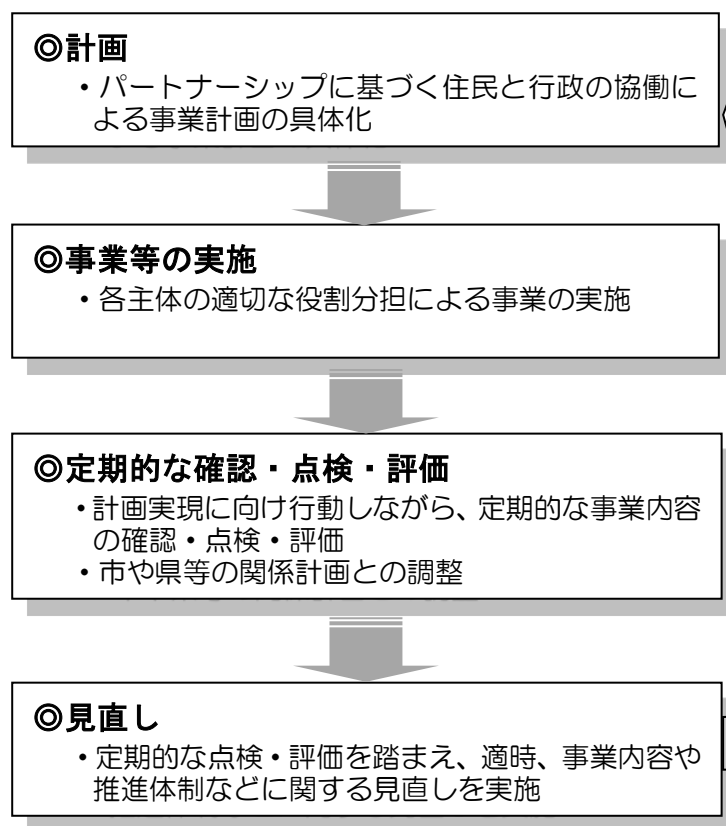
- 地区内の住民と地区を離れた住民が、親睦を深め、絆（つながり）を維持できるよう、様々な交流活動を展開します。



## （２）復興まちづくりの推進手順

小浜及び岩間地区の復興まちづくりは、この復興グランドデザインに掲げたまちづくり方策を、総合的な推進体制のもとでそれぞれの事業の主体が責任をもって進めていきますが、これらの推進にあたっては、計画（Plan）→ 実施（Do）→ 確認・点検・評価（See、Check）→ 見直し（Action）のサイクルを機能させて進めることが重要です。各施策・事業ごとにこのサイクルを意識して推進し、全体としての健全なサイクルを維持していくように努めることが望めます。

[まちづくり活動の深化プロセスの考え方]



岩間地区(2011.05.24) ↓

↑ 小浜地区(2011.05.25)

復興に向けた懇談会



復興グランドデザイン策定ワークショップ  
(2014.11.18)

## ○小浜・岩間地区復興グランドデザイン策定の経緯

区 分		時 期	主な内容
策定方針検討		平成 25 年 6 ～12 月	策定の方法や体制の検討、協議
ワークショップ	第 1 回	平成 26 年 1 月 28 日	策定趣旨の共通理解、自由な意見交換
	第 2 回	平成 26 年 3 月 7 日	地区の問題等に関する意見交換（1）
	第 3 回	平成 26 年 3 月 25 日	地区の問題等に関する意見交換（2）
	第 4 回	平成 26 年 10 月 2 日	策定趣旨の確認 / 資源と問題点について協議
	第 5 回	平成 26 年 10 月 23 日	資源・問題点の整理集約 →「課題」「テーマ」の協議 → 仮設定
	第 6 回	平成 26 年 11 月 18 日	目標・基本理念の協議 / テーマ別方策案の整理議論（1）（テーマ①）
	第 7 回	平成 26 年 12 月 2 日	テーマ別方策案の整理議論（2）（テーマ②③）
	第 8 回	平成 26 年 12 月 22 日	テーマ別方策案の整理議論（3）（テーマ④⑤） / （防災緑地についての共通理解）
	第 9 回	平成 27 年 1 月 13 日	テーマ確定、テーマ別方策の集約、主体やスケジュールの協議 → （行政内各課照会へ）
	第 10 回	平成 27 年 2 月 19 日	計画書の構成を協議 / 目標・基本理念の再協議、 案の絞り込み
	第 11 回	平成 27 年 3 月 10 日（小浜） 平成 27 年 3 月 26 日（岩間）	目標・理念決定 / まちづくり方策の修正協議 （行政のフィードバック案協議） / 重点プロジェクト協議
	第 12 回	平成 27 年 4 月 23 日	まちづくり方策・重点プロジェクト確認 / 計画書案の検討
	第 13 回	平成 27 年 5 月 18 日	計画書の確認 / 計画書概要版の合意

## ◆写真・図の提供者（敬称略・五十音順）

泉武子      大津賀禮子      小宅幸一      小岩幸吾      坂本宏      中山明穂  
 長谷川達雄      平沢ミチ子      緑川二千男  
 いわき勿来ロータリークラブ      宇部市      福島県      いわき市



(2014.12.22)



復興グランドデザイン策定ワークショップ



(2015.02.19)





小浜・岩間地区復興グランドデザイン

平成 27 年 7 月

小浜行政区・岩間行政区

い わ き 市